

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/07/01

Brexit後の落ち着きどころを探る

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	100円台前半でもみ合いへ 予想レンジ: 100.500~105.500円	2-3
<u>カナダ/円</u>	➡	先月急落の戻りを試すか 予想レンジ: 76.000~85.500円	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



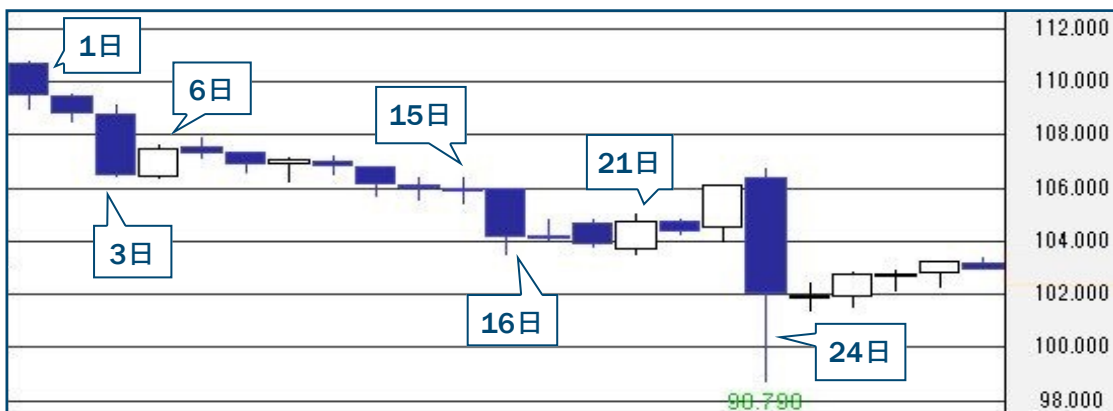
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ドル/円 6月の推移

USD/JPY

6月のドル/円相場は98.798～110.826円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約6.8%の大幅な下落(ドル高・円安)となった。米5月雇用統計を受けて早々に前月の上昇分を吐き出した上に、米連邦公開市場委員会(FOMC)の利上げ見送りと日銀の追加緩和見送りがドル売り・円買いに拍車をかけた。さらに極めつけは英国民投票で欧州連合(EU)離脱が決まった事であった。直前まで残留期待が高かっただけに、節目の100円をあっさり割り込むほどのネガティブサプライズを誘い、2013年11月以来の安値となる98.798円まで下値を切り下げた。その後、市場が落ち着きを取り戻す中でやや値を戻したが、月初の水準には遠く及ばない103円台前半で取引を終えた。



四本値

OPEN	110.701
HIGH	110.826
LOW	98.798
CLOSE	103.243

1日	安倍首相が会見を開き、正式に消費増税の2年半延期を発表。また「総合的かつ大胆な経済対策を秋に講じる」とした。市場はこれを材料出尽くしと受け止め円買いが活発化した。
3日	米5月雇用統計で非農業部門雇用者数が前月比3.8万人増となり、予想(16.0万人増)を遥かに下回った上に、3月4月分が合計5.9万人下方修正された事を受けてドル売りが活発化すると106円台半ばまで下落した。なお、米5月失業率が4.7%(予想4.9%)に改善して2007年11月以来の低水準となった他、平均時給は前月比+0.2%、前年比+2.5%と予想通りの伸びを示したが、非農業部門雇用者数の下ブレによる負のインパクトを和らげる事はできなかった。
6日	イエレン米連邦準備理事会(FRB)議長が「条件が合えば緩やかな利上げが適切となる可能性が高い」「米経済は前向きな力が後ろ向きの展開を上回る」「5月雇用統計は失望であり懸念」「5月雇用統計は賃金の伸びがようやく上向いた可能性を示唆した」「(雇用統計について)単月データを過度に重視すべきではない」などと述べるとドルが乱高下した。前月末の発言「今後数カ月での利上げが適切となる可能性」とのトーンの違いを巡り、利上げに関する市場の思惑が交錯した。
15日	米FOMCが利上げ見送りを発表し、成長率見通しを引き下げると105円台前半まで下落。ただ、インフレ見通しが小幅に引き上げられた事もあって急速に下げ止った。その後、イエレン議長が「経済活動は穏やかなペースで拡大し、労働市場の指標は強くなる見通し」などと楽観的な発言を行うと106円台を回復するなど神経質に上下した。
16日	日銀が金融政策の現状維持を発表すると105円台を割り込んで下落。黒田総裁が「金融市場は世界的に不安定な動きが続いている」「今後も毎回会合でリスク点検し必要なら躊躇なく追加緩和」などと発言したが市場は聞く耳を持たず104円台を割り込んで続落した。
21日	麻生財務相が「為替介入は安易にやるつもりはない」などと発言した事を受けて一時円買いが強まる場面もあったが、英世論調査の結果などから同国のEU離脱に対する懸念が後退する中で円売り優勢の流れが続いた。なお、イエレン米FRB議長が上院で議会証言を行い「足元の雇用の伸び鈍化を考慮すれば、慎重な利上げは依然適切」「長期でみた米経済を楽観しているが、生産がさえない状況の継続を軽視しない」などと述べて、緩やかなペースでの利上げを再表明した。
24日	前日に行われた英国のEU離脱を問う国民投票の開票状況を睨んで大荒れの展開となった。開票作業開始直後に離脱支持優勢が伝わると103円台へ急落。その後やや値を戻したものの、開票作業が中盤に差し掛かって離脱支持のリードが続くと、ボンドの急落とともに円買いが再開。ほんの数分間で103円台から98.798円まで暴落するなどパニック的な円買いが見られた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	0.8770%
HIGH	0.9067%
LOW	0.4953%
CLOSE	0.5817%

米10年債利回

OPEN	1.8441%
HIGH	1.8546%
LOW	1.4041%
CLOSE	1.4697%

日経平均

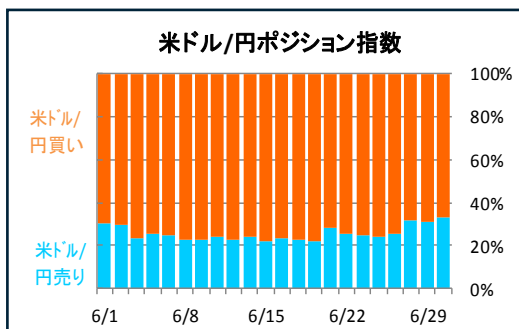
OPEN	17097.22
HIGH	17145.95
LOW	14864.01
CLOSE	15575.92

NYダウ平均

OPEN	17754.55
HIGH	18016.00
LOW	17063.08
CLOSE	17929.99

6月のポジション動向

7月の日・米注目イベント



- ・5月日本消費者物価指数(1日)
- ・日銀短観(1日)
- ・6月米ISM製造業景況指数(1日)
- ・6月米ISM非製造業景況指数(6日)
- ・米FOMC議事録(6日)
- ・6月米ADP全国雇用者数(7日)
- ・5月日本経常収支/貿易収支(8日)
- ・6月米雇用統計(8日)
- ・日本参議院選挙(10日)
- ・米ページブック(13日)
- ・6月米生産者物価指数(14日)
- ・6月米小売売上高(15日)
- ・6月米鉱工業生産(15日)
- ・6月米消費者物価指数(15日)
- ・6月米住宅着工件数(19日)
- ・7月米消費者信頼感指数(26日)
- ・米FOMC(26-27日)
- ・日銀金融政策決定会合(28-29日)
- ・4-6月期米GDP・速報値(29日)

7月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

7月FOMCにおける利上げ確率(短期金利市場の織り込み度合い)は、6月FOMC前に一時5割前後まで上昇していたが、英国の欧州連合(EU)離脱決定後には0%となっている。そればかりか、9月以降の利下げの可能性をわずかながら織り込むなど、市場はFOMCの利上げスタンスそのものにも懐疑的な見方を示しているようだ。こうした状況が続けばドル/円が再び100円を割り込むリスクを警戒する必要があるだろう。ただ、FOMCの次の一手が利下げという見方は行き過ぎであり、そうした見方が修正される過程で、ドルには上昇余地があると見ている。7月8日の米6月雇用統計が5月分の汚名を挽回した上で、28-29日のFOMC(経済・金利見通しの発表およびイレンFRB議長の会見予定なし)で利上げスタンスが撤回されない限り、利下げの思惑は後退する事になるだろう。

ただ、日銀金融政策決定会合は波乱を呼ぶ可能性があるため注意が必要だ。7月1日に発表された本邦5月消費者物価指数は前年比-0.4%と3カ月連続のマイナスであった。追加緩和期待が膨らみやすい状況だが、雇用情勢やコアコアインフレ率(食料とエネルギーを除いた消費者物価の前年比伸び率)が堅調な点は、日銀にしてみれば想定どおりと言えよう。事前の追加緩和期待が高すぎると、失望の円買いを誘う可能性もある。

ドル/円が下値を切り下げて100円割れが定着する可能性は低いと見るが、105円を大きく超えて上昇局面入りするのも困難と見ており、当面は100円前半で落ち着きどころを探る展開となりそうだ。(神田)

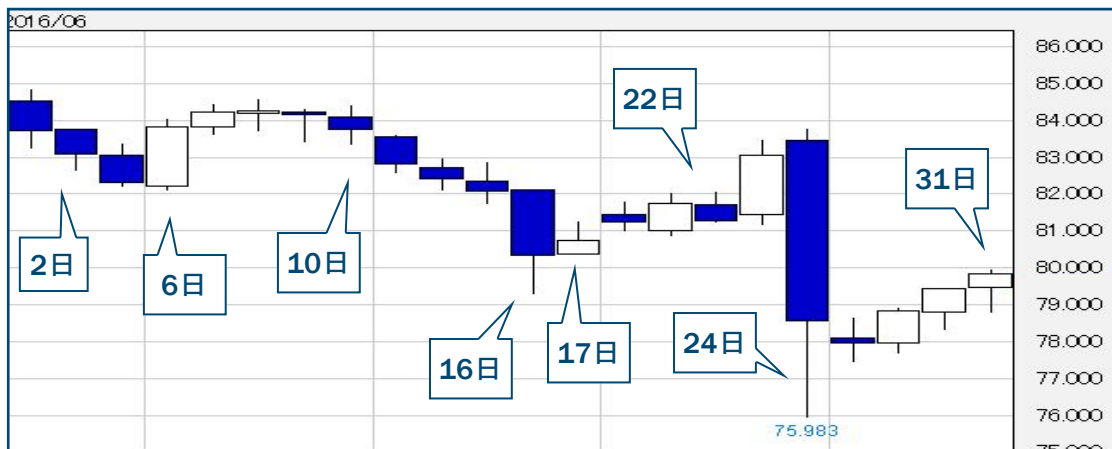
(予想レンジ: 100.500~105.500円)

カナダ/円 6月の推移

CAD/JPY

6月のカナダ/円相場は75.983～84.853円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約5.6%の大幅下落(カナダドル安・円高)となった。

日銀が金融政策の現状維持を決定した事などから円高が優勢となり、カナダ/円は下落。英国の欧州連合(EU)離脱を問う国民投票で英EU離脱が決定的となると、ポンド/円相場が暴落すると共にリスク回避の動きが強まり、カナダ/円は2012年6月以来となる75.983円まで急落。その後はショックが徐々に和らぎ、主要国株価やNY原油先物が反発した事から、80円ちょうど付近まで下げ幅を縮小して取引を終えた。



四本値

OPEN	84.529
HIGH	84.853
LOW	75.983
CLOSE	79.846

2日	石油輸出国機構(OPEC)が原油生産目標設定を見送った事から、NY原油先物が急落して48ドルを割り込むと、カナダ/円は82.666円まで下落。しかしその後、米エネルギー情報局(EIA)の週間原油在庫統計でガソリン在庫が予想以上に減少していた事が明らかとなり、NY原油先物が49ドル台に反発すると下げ幅を縮小した。
6日	ナイジェリアの政情不安を背景にNY原油が上昇した事や、イエレンFRB議長が緩やかな利上げを支持した事を好感してNYダウ平均が上昇した事から、カナダ/円は84.058円まで上昇した。
10日	加5月雇用統計は、失業率が6.9%、新規雇用者数は1.38万人と予想(7.2%、0.18万人増)より強い結果となった。これを受け、カナダ/円は84.408円まで一時上昇。しかし、その後は根強い英EU離脱懸念を背景に株安・原油安となったため、83.387円まで反落した。
16日	日銀は金融政策の現状維持を決定。大方の予想通りの結果ではあったが、これを受けて仕掛けた円買いが強まった。その後、英世論調査で離脱支持が残留支持を上回ったと報じられた事や、NYダウ平均が一時下落した事から、リスク回避の動きが強まると、カナダ/円は79.307円まで急落した。
17日	加5月消費者物価指数は前年比+1.5%、コア・前年比+2.1%(予想:+1.6%、+2.1%)であった。
22日	加4月小売売上高は前月比が+0.9%、自動車を除いた前月比は+1.3%と、いずれも予想(+0.8%、+0.7%)を上回った事を受け、カナダ/円は一時82.073円まで上昇。しかし、その後は原油安が重石となって81.247円まで反落した。
24日	英国でEU離脱を問う国民投票が終了。集計開始直後に残留優勢が伝えられると、カナダ/円は一時83.767円まで上昇。しかし、徐々に離脱優勢が伝えられると、ポンド/円相場でポンド売り・円買いが急速に強まると共に、日経平均が1200円超下落したため、75.983円まで急反落した。ただ、下げが一服すると79.40円台まで値を戻すなど、神経質な展開となった。
30日	加4月国内総生産(GDP)は前月比+0.1%と予想通りであった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

加10年債利回り

OPEN	1.309%
HIGH	1.319%
LOW	1.045%
CLOSE	1.061%

N Y 原油

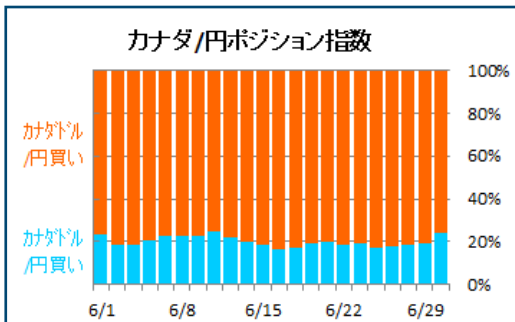
OPEN	48.82
HIGH	51.67
LOW	45.83
CLOSE	48.33

NYダウ平均

OPEN	17754.55
HIGH	18016.00
LOW	17063.08
CLOSE	17929.99

6月のポジション動向

7月のカナダの注目イベント



- ・5月加貿易収支(6日)
- ・6月加Ivey購買部景況指数(7日)
- ・6月加雇用統計(8日)
- ・6月住宅着工件数(11日)
- ・BOC政策金利発表(13日)
- ・5月加新築住宅価格指数(14日)
- ・5月加小売売上高(22日)
- ・6月加消費者物価指数(22日)
- ・5月加GDP(29日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

7月の見通し

6月のカナダ/円相場は、日銀の金融政策現状維持や英EU離脱決定、原油相場など、外部要因に左右される展開が目立った。7月は加中銀(BOC)理事会があるものの、政策変更の見込みはなく、相場を動かす手掛かり材料にはなりにくい。したがって、今月も引き続き外部要因がカナダ/円相場を動かす事となりそうだ。

テクニカル面では、先月24日の急落に対する戻り具合に注目したい。24日高安の61.8%戻し(80.794円)や76.4%戻し(81.930円)を突破すると、24日高値(83.767円)上抜けを試す機運が高まりそうだ。高値突破となれば、5月以降上値目処となっている85円台に向けた一段高もあるだろう。ただし、英EU離脱決定に端を発するリスク回避ムードを払しょくするのは容易ではないため、再び市場心理がリスク回避に傾くようだと相場反落もあり得るので注意したい。

その他、本邦参議院選挙(10日)や米連邦公開市場委員会(FOMC、26-27日)、日銀金融政策決定会合(28-29日)を受けた株価の動向にも注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 76.000~85.500円)